

令和6年度

教科書調査研究報告書

中学校

音楽（器楽合奏）

富士地区教科用図書採択連絡協議会
富士地区教科書研究委員会

I 調査研究対象教科書

発行者	書名	学年
17 教育出版	中学器楽 音楽のおくりもの	1～3年
27 教育芸術社	中学生の器楽	1～3年

II 調査研究の観点

1 内容

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるように、どのような工夫がされているか。
- (2) 曲にふさわしい器楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるために、どのような工夫がされているか。
- (3) 音楽に対する感性を豊かにし、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度や音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことができる内容が取り上げられているか。
- (4) 教科横断的な視点を踏まえた内容が取り上げられているか。

2 組織・配列・分量

- (1) 表現及び鑑賞の活動がバランスよく配置され、多様な音楽活動が無理なくできるよう、系統的・発展的に組織されているか。
- (2) 生徒が思考・判断し、主体的な音楽活動に取り組めるような工夫がされているか。
- (3) 豊かな情操を培う視点から、季節や日常生活との関連を図るよう考慮して配列されているか。

3 生徒の発達の段階への配慮

- (1) 生徒の発達の段階や生活体験、興味・関心に応じるために、多様な学習活動が進められるよう工夫されているか。
- (2) 楽譜、写真、挿絵、図表、色彩、文字の表記等について、発達段階に応じて適切で分かりやすくなっており、学習意欲を高めるものになっているか。

別紙様式 2

種目名	音楽（器楽合奏）
-----	----------

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略 称		
17 教出	中学器楽 音楽の おくりもの	<p><内容></p> <p>(1) リコーダーや箏の楽曲が豊富で、カノンなどアンサンブルをしながら楽しめるような曲を多く取り入れている。また、鑑賞で扱った教材の旋律集があることで、より深い学びにつながる。楽器に合った色々なジャンルの曲が選曲され、親しみやすい。</p> <p>(2) リコーダーでは、アーティキュレーションの説明に加え、2次元コードが示されており、4つの奏法の音を聴くことで曲にあった奏法を聴いて考えることができる。また、イメージや感情を膨らめるページ構成と楽器の音色や響きを生かした音楽文化と豊かに関わりながら学びを進められる内容の工夫が施されている。</p> <p>(3) 表現活動で扱う楽器の背景にある文化や伝統を考えるページがあり、実技だけでなく文化にも触れることができる。また、「見る」「聴く」「記録する」の学びリンクを活用し、主体的に学ぶことができる。名曲旋律集が最後にあり、音楽に興味がある生徒が演奏を楽しむために有効である。</p> <p>(4) 自国の伝統楽器と世界の楽器が提示されており、SDGsの平等な世界の実現への位置づけが意識できる。</p> <p><組織、配列、分量></p> <p>(1) 使用頻度が多いリコーダーの内容は充実しており、その他の「吹く」「打つ」「弾く」の題材も偏りがなく、系統づけられて配列されている。最初に個々の楽器について扱われ、その後にアンサンブル曲の配列となっている。見通しをもって取り組み、まとめの練習をするという段階をおって組織されている。</p> <p>(2) 生徒の実態に応じて、演奏する箇所を選択できる教材があり、習熟度に応じて組み合わせることができる。また、教材名のあとに「活動のポイント」が載せられており、学習の見通しをもつことができ、学びを深めることができる配列になっている。</p> <p>(3) 各楽器が生活の中でどのように使用されているのか写真や文章で説明されている。また、世界の楽器の仲間についても知ることができる。</p>

	<p><児童の発達段階への配慮（表現）></p> <p>（１）生徒に抵抗がないようソプラノとアルトリコーダーを関連付けて取り上げられており、学校の実態に応じて選ぶことができる。始めに基礎的な部分から学習し、アンサンブルを楽しめるような配置がされている。演奏時の指番号が実際の手の写真にふられていたり、写真やイラスト、色分けなどが工夫されていたりするため見やすい。</p> <p>（２）リコーダーが一番はじめにあり、すぐに見つけられるため、取り組みやすい。和楽器がたくさん入っているため、鑑賞教材とリンクさせて資料として利用可能である。ユニバーサルデザインに配慮し、学習内容を分かりやすい文言と美しいビジュアルで表している。教科書紙面と２次元コード（まなびリンク）の相乗効果で、演奏の仕方がより分かりやすくなっている。</p> <p><総評></p> <p>手触りがよく、温かい感じがする教科書の素材となっている。リコーダーなど表現活動で扱う楽器と、楽器の背景にある文化や伝統を考えられる写真が掲載されており、楽器の音色や響きを生かした音楽文化と豊かに関わることができる。</p> <p>題材、教材、活動のポイントがわかりやすく配列されており、各楽器に適した学習の進め方で、主体的・協働的な学びが期待できる。また、簡潔な説明文、豊富な写真、イラストを活用することで視覚的に興味関心をもって学ぶことができると考える。</p> <p>鑑賞で扱った教材を器楽曲で演奏できるようになっており、知識を技能と関連付けることができ、深い学びを実現することができる。</p> <p>ICTを活用した個別最適な学習への配慮が意識されており、見る、聴く、知る、の３つのコンテンツから自分が必要なものを選んで学ぶことができるため、主体的に取り組むことが期待できる。</p>
--	--

別紙様式 2

種目名	音楽（器楽合奏）
-----	----------

発行者 番号 略 称	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
27 教芸	中学生の 器楽	<p><内容></p> <p>(1) 各楽器の構造や基本的な奏法について、写真やイラストを用いてわかりやすく解説されており、特に楽器についての知識については豊富に取り上げられている。箏の部分に旋律作りなどの創作のページも設定されている。打楽器のページが多く、リズムアンサンブルの曲が多く取り扱われている。</p> <p>(2) 箏のあらゆる奏法について写真と説明が詳しく明記されており、曲の雰囲気に応じて表現を工夫できるように工夫されている。特にリコーダーでは、アーティキュレーションの説明が文章と図形でわかりやすく説明されており、学びのコンパスには、その奏法を更に実践するやり方が示されていて、創意工夫を考えやすい。</p> <p>(3) 演奏する楽器の歴史や作品について示されており、音楽文化に深く親しむことができる。また、ページの見開きに著名な演奏家の楽器に対する思いや生徒に向けてのメッセージが掲載されていることで、その楽器に対する興味・関心をもつことができ非常に効果的である。</p> <p>(4) 自国の楽器だけでなく、世界の楽器との共演する紹介があったり、伝統楽器が地域でどのように活用されていたりするのか示されており、より伝統楽器が身近に感じることができる。</p> <p><組織、配列、分量></p> <p>(1) 「学びのコンパス」やいろいろな注釈があり、学んでいく上で支援となるものが多い。特にリコーダーについては、レッスン1～3に分かれ、段階に合わせて対応できる。</p> <p>(2) 各楽器がバランスよく取り上げられており、それらを用いた楽曲について過不足なく扱われている。学習指導要領の内容及び楽曲の性格に即して、ねらいを明確化した教材が適切に配置されている。また、キャラクターが伝えている文があることで、生徒の思考を手助けする工夫がされている。</p> <p>(3) さまざまな楽器の奏法や基本的な技能をわかりやすく説明されており、簡単な運指から学びの習得に応じて段階的に進められるように配列がされている。特に太鼓の教材では、地域の郷土の祭りや芸能と関連が示されている。</p>

	<p><児童の発達段階への配慮（表現）></p> <p>(1) リコーダーで同じ曲がソプラノ、アルト両方の楽譜で掲載されていて、新たにアルトリコーダーを始める生徒にとっては学びやすい。各楽器の演奏者についてQRコードが表示され、生徒は自宅で、自主的に学びを深めることができる。「バンドの世界をのぞいてみよう」というページがあり、バンドに興味をもっている生徒たちも多いので、より親しみやすくなっている。</p> <p>(2) 生徒の多様な興味・関心を引き出し、好奇心に働きかけるような内容が取り上げられている。楽譜は全体的に非常に見やすく、和楽器においては、和楽器固有の記譜法を掲載するなど、様々な指導実態に適応できるよう配慮されている。</p> <p><総評></p> <p>教材の一部に学習目標や活動文、音楽を形づくっている要素が示されていることで、学習指導要領に示された内容を確実に学習することができる。また、学びのコンパスがあることで、表現の違いについて考えるきっかけになり、主体的に学びを深めることができる。これらの点が高く評価できる。</p> <p>富士地区では、多くの学校でアルトリコーダーを教材として扱うところが多く、リコーダーに関する奏法や基本的な技能を分かりやすく説明されており、段階を踏んで無理なく取り組むことができるよう配慮されている。また、和楽器に関しての内容が特に充実している。</p> <p>さまざまな音楽文化に触れながら学習できる内容が充実している。また、生徒が課題意識をもって個人、グループで共同しながら教材と対話することができる教科書であることから、富士地区の子どもたちにふさわしい教科書である。</p>
--	---